

10月

■神社山自然観察路秋季一般公開 一般参加可能
 日時 10月6日(日)
 場所 北海道演習林
 問合せ先 北海道演習林
 TEL:0167-42-2111
 E-mail:hokuen@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/hokuen/

■第17回東京大学ホームカミングデー
 日時 10月19日(土)
 ・収穫体験会 一般参加可能
 場所 生態調和農学機構
 ・ペット相談会(OB・職員対象)
 場所 附属動物医療センター
 ・第57回農学部公開セミナー 一般参加可能
 場所 弥生講堂一条ホール
 問合せ先 Email:koho@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

■子ども樹木博士認定会 一般参加可能
 日時 10月20日(日)
 場所 田無演習林
 主催 西東京市「子ども樹木博士」を育てる会
 問合せ先 田無演習林
 TEL:042-461-1528
 E-mail:tanashi2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/

■休日公開 一般参加可能
 日時 10月20日(日)
 場所 田無演習林
 問合せ先 田無演習林
 TEL:042-461-1528
 E-mail:tanashi2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/

■牧場公開デー 一般参加可能
 日時 10月27日(土)
 場所 附属牧場
 問合せ先 牧場事務室
 TEL:0299-45-8953
 E-mail:bokujo-jimu@ofc.a.u-tokyo.ac.jp

■公開講座「樹木のボディランゲージ」 一般参加可能
 日時 10月29日(火)
 場所 秩父演習林
 問合せ先 秩父演習林利用者窓口
 TEL:0494-22-0272
 E-mail:chichibu-riyuu@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chichibu/

■公開講座「チョコレート作りを体験しよう!」 一般参加可能
 日時 10月(未定)
 場所 樹芸研究所
 問合せ先 樹芸研究所加納事務所
 TEL:0558-62-0021
 E-mail:jyugeiken@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/

11月

■しおじの会と巡る東大秩父演習林樹木園 一般参加可能
 日時 11月9日(土)
 場所 秩父演習林
 問合せ先 秩父演習林利用者窓口
 TEL:0494-22-0272
 E-mail:chichibu-riyuu@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chichibu/

■A1ターム授業終了 11月15日(金)

■犬山研究林利用者協議会「秋のふれあい自然観察会」 一般参加可能
 日時 11月17日(日)
 場所 生態水文学研究所
 問合せ先 生態水文学研究所
 TEL:0561-82-2371
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/

■A2ターム授業開始 11月18日(月)

■下田市教育委員会共催講座「林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会」 一般参加可能
 日時 11月(未定)
 場所 樹芸研究所
 問合せ先 樹芸研究所加納事務所
 TEL:0558-62-0021
 E-mail:jyugeiken@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/

12月

■休日公開 一般参加可能
 日時 12月1日(日)
 場所 田無演習林
 問合せ先 田無演習林
 TEL:042-461-1528
 E-mail:tanashi2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/tanashi/

■シデコブシの会「標石を探そうツアー」 一般参加可能
 日時 12月1日(日)
 場所 生態水文学研究所
 問合せ先 生態水文学研究所
 TEL:0561-82-2371
 URL:http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/

■影森祭 一般参加可能
 日時 12月8日(日)
 場所 秩父演習林
 問合せ先 秩父演習林利用者窓口
 TEL:0494-22-0272
 E-mail:chichibu-riyuu@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chichibu/

■浜名湖をめぐる研究者の会 一般参加可能
 日時 12月上旬
 場所 附属水産実験所
 TEL:053-592-2821

■冬期休業 12月28日(土)から1月5日(日)

1月

■シデコブシの会「巣箱作成」 一般参加可能
 日時 1月19日(日)
 場所 生態水文学研究所
 問合せ先 生態水文学研究所
 TEL:0561-82-2371
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/

■A2ターム授業終了 1月22日(水)

■Wターム授業開始 1月23日(木)

2月

■森林博物資料館一般公開 一般参加可能
 日時 2月3日(月)
 場所 千葉演習林
 問合せ先 千葉演習林社会連携係
 TEL:04-7094-0621
 E-mail:chibaen@uf.a.u-tokyo.ac.jp
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/

■シデコブシの会「ジビエで学ぶ野生生物」 一般参加可能
 日時 2月16日(日)
 場所 生態水文学研究所
 問合せ先 生態水文学研究所
 TEL:0561-82-2371
 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/

■Wターム授業終了 2月20日(木)

■春季休業 2月21日(金)~3月31日(火)

3月

■学位記授与式 3月23日(月)
 ■卒業式 3月24日(火)

「ふれあい」から生じるものづくり



今年の研究室メンバー

微生物潜在酵素(天野エンザイム)寄付講座、通称、**微**微潜研は2017年に応用生命工学専攻に開設された新しい寄付講座です。現在は、学生、教員、ポスドクの計11名で、研究室の中でも比較的小さな部類です。寄付元の天野エンザイムは名古屋市に本社を置く明治32年創業の会社で、胃腸薬に入っている消化用酵素や食品加工用酵素などを微生物から抽出して製造販売しています。昔から微生物は酵素の供給源として人の役に立っているのです。

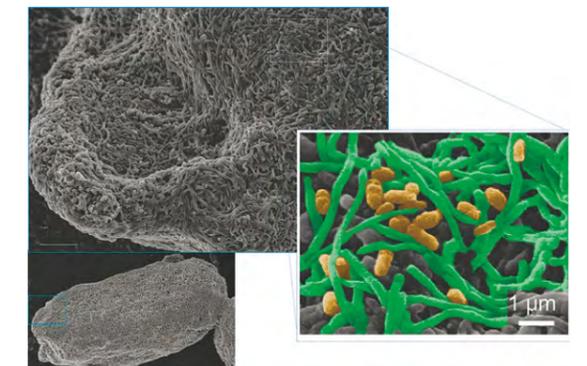
微潜研は講座名に酵素と付いていますが、ダイレクトに酵素に関する研究をしているわけではなく、薬を作る微生物である放線菌に注目して研究しています。放線菌は主に土の中にいる菌群で、抗生物質をはじめとして、とにかく非常に多様な種類の複雑な構造の化合物(天然物)を作ります。微潜研ではこの放線菌の作る有用天然物がどのように菌体内で作られるかという研究をしています。放線菌の天然物合成は多段

階からなる複雑な酵素反応によるものであり、ここでラボの名称でもある酵素が関わってきます。酵素反応では常温常圧の穏やかな条件で化学反応が進みます。低炭素循環型社会実現のためには、様々な酵素の活用がこれからますます重要になりそうです。

最近の私たちの研究から、放線菌は自然環境中では、単独で好き勝手に天然物を作っているのではなく、同じ環境に生息する周りの菌からの刺激に反応して作り出すことがわかってきました。この刺激は直接、菌同士が接触することによって生じます。目も耳もない微生物が一体どうやって他者を見分けて、刺激を得ているのかはとても不思議です。人間社会では、「ふれあい」が相手を知り、相手の心を「読む」手段としてとても大事です。微生物のミクロな世界でも、人間社会と同様に「ふれあい」がコミュニケーション手段として重要であるというのはなんと面白いですね。



放線菌(左)の赤色素生産が別の菌(右)との接触部分で誘導されている



フラスコ培養液中の微生物同士の「ふれあい」

応用生命工学専攻
 尾仲 宏康 特任教授

弥生 69 Fall 2019

編集後記

本年4月より農学部広報室長を務めさせていただいていますが、前任の清水謙多郎広報室長の方針に基づいた広報活動(「弥生」の刊行や農学部公開セミナーの企画・開催など)に努力していきたいと考えておりますので、ご支援、応援のほど、よろしくお願致します。今回は、「読む」という共通タイトルで原稿をお願いしたところ、熊谷先生は、森林科学の観点から森林と気候の関係、板内先生は、獣医の観点から医薬品の副作用、稲山先生は、生物材料の観点から壁の性能について、寄稿して下さいました。農学という学問領域の中では、「読む」対象は千差万別であることを実感できる内容になっています。また、本号で取り上げた学生、卒業生、教員の活躍にも、こんなところまで農学の範

疇なのか…と感じていただけるのではないかと考えています。人間の衣食住を多方面から支えてきた学問領域「農学」においても、昨今、持続可能で環境調和型の科学技術の確立が期待されています。今後、農学部では、自然の摂理、人間活動の結果を「読み」ながら、問題が起こった時の解決法を科学的に提案して実践していくような教育・研究を展開していきたいと考えています。定期的に読書をする人の方が、しない人より寿命が長くなることが最近報告されています。引き続き、定期的に「弥生」を「読み」、長生きをしていただけるようお願いします。

広報室長 高橋伸一郎